

1985-86年度

会 長 方 針

会長 新 家 忠 男

1985～1986年度国際ロータリー会長、エドワード・F・カドマン氏は、“You are the Key”（あなたが鍵です。あなたこそロータリーの鍵です）をテーマにしました。これは会員の一人一人が、ロータリーの奉仕と発展の鍵を握っているということです。

あなた方と云わずに、あなた1人を指していることに注目していただきたい。ロータリーは会員個人を重視しているのです。従って、クラブの運営も、奉仕活動も全員参加が原則です。小数の役員に任せるのではなく、全員が個々の力を動員してロータリー活動をするのです。そこで私は、第三年度を迎えた福岡北クラブの今年度方針として、委員会活動の活性化を目標とすることにします。

委員会対策

1. 毎月第1週例会日に理事会開催。

クラブ運営に関するあらゆる問題の決論を出す理事会であるから、全理事が出席すること。

2. 毎月第2週例会日に、各委員会を開く。

例会の終了後10分間位、その場所で開く。全員出席のこと。

3. 委員長は委員会の出席者名、協議内容を記録し、月末例会日に幹事を経て会長に報告する。

4. 3ヶ月毎に、情報は親睦委員会と連絡の上、委員会単独、又は合同でロータリー研修会を開き、そのあとで簡単な懇親会を催してもよい。必要があれば会長、幹事が出席する。

例会は当分の間、委員会毎のテーブルとする。

5. S.A.Aは出席委員会が中心となって、例会のもち方を研究する。色々な会社の徴収方法も考えること。

クラブ運営方針

中井ガバナーが、個性のあるクラブを期待しているから、福岡北クラブの特長を生かしたい。

先づ、事務局専任者を廃止するためには、幹事の負担を軽くするよう、全会員が協力すること。

1. クラブ奉仕

- ホームクラブの出席率向上対策を研究すること。
- 会員増強目標を80名とする。
- ロータリー情報に関しては、ロータリー友、ガバナー月信、クラブ週報を読む習慣をつけること。
- 新会長に関しては選挙の6段階を守ることと、推薦者が責任を持つこと。
- 資料保存委員会を新設し、記録の整理保存をはかる。

2. 職業奉仕

- 他クラブの職業奉仕事例を研究し、年度の終わりに、会員の行った事例集を発行する。（古いものでもよい）

3. 社会奉仕

- 地域のニーズを調査し、地域に密着した社会奉仕を考える。

4. 青少年奉仕

- ボーイスカウトの育成強化
- R Y L Aに協力

5. 国際奉仕

- 米山奨学会

募金目標 700,000円

- ロータリー財団

目標 100.0%

ポールハリスフェローは準フェローを増やす対策を研究する。全世界財団據金の80%はフェローである。

- ボルドー北クラブとの姉妹提携。